

中国雲南省・麗江編

世界で唯一の生きている象形文字、トンパ文字のある町



ホテルに掲げてあったトンパ語の文章。意味は「人生笑着過せば長生きできるよ」



(上) 中国政府のモットーの下にはその訳のトンパ文字。
(左) 観光地でみた看板。トンパ文字は中国語と英語の間。

日本の総面積より大きい中国・雲南省は中国南部にあり、ミャンマーやベトナムと国境を接するところ。ここにはチベット・ビルマ語族やモン・クメール語族など 24 の少数民族が住み、文化や言語が多様な世界です。

人口4,700万人の同省の州都昆明には漢民族を中心に少数民族も住んでいますが、さらに地方に行くと少数民族は町ごとに住んでいるところも。そのなかでも最も興味深かったのは麗江市のナシ族(納西族)です。

ナシ族は麗江市周辺を中心に約 30 万人が暮らします。彼らはナシ語を話し、世界で唯一現存している象形文字トンパ(東巴)文字を今でも一部で使用しているのです。

10 世紀ごろにできたと思われるこの絵文字は、今では書ける人が数人ほど。ナシ族独特の自然崇拝のトンパ教のなかのシャーマンが使う文字として使われてきました。宗教的に使われてきた文字で、経典などが今でも残って使用されているのです。この文字は現在ユネスコの「世界の記憶」にも登録されています。

今回は本当に偶然に書ける方にお会いできたのですが、彼によると、シャーマンである男性しかこの文字は読めないとのこと。また、女性にはこの文字の教育を施さないのが伝統だそうで、宗教色が極めて強い文字であることがわかりました。

さて、文字についてですが、原則的に黒で書きます。ただ、色を付けることで単語を強調したり、異なる意味を表すこともできるのです。文字数は1,400文字ほど。これを組み合わせて文章を作っていきますが、これとは別に表音文字があり、例えば、漢字の名前はこれを使って表記します。

あまり日常的に使われている文字ではないのですが、面白いことに麗江市内にはこの文字の標識などを見ることができます。なかなかかわいい象形文字なので、じっと見入ってしまいます。

この文字は書ける人が数人にまでなってしまうことから、将来的になくなってしまいう文字ともいえるでしょう。ただ、幸いにも辞書が発売されていました。横長のトンパ紙で作られたもので、そこにはびっしりと絵文字が描かれています。また、トンパ文字で書かれた会話帳も売られていました。最近ではアプリも出てきており、ナシ族の文化保護と維持にも役立っているようです。